

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回のとがたんは、12月9日(土)で、「地衣散歩」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、12月3日(日)の9:30からです。

11月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→手賀沼ふれあいライン→桃山公園→藤棚→手賀沼遊歩道→市民農園前でまとめ&解散
- 観察日時と天気：2017年11月11日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：24人(大人19人、子ども5人)
- ゲスト講師：1人(白樺文学館学芸員：稲村隆さん)
- 市民スタッフ：5人(石原直子、蒲田知子、木村稔、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：1人(斉藤安行)

観察した生き物の記録

【鳥類】カモ科：カルガモ、コガモ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/サギ科：ダイサギ/クイナ科：オオバン/カモメ科：ユリカモメ/ミサゴ科：ミサゴ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス/シジュウカラ科：ヤマガラ、シジュウカラ/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス/エナガ科：エナガ/メジロ科：メジロ/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：シロハラ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ/アトリ科：カワラヒワ、シメ*/ホオジロ科：アオジ/ (家禽および外来種) ドバト

【は虫類】ナミヘビ科：シマヘビ、アオダイショウ

【両生類】アマガエル科/ニホンアマガエル

【魚類】ダツ目：ミナミメダカ

【甲殻類】サワガニ科：サワガニ

【昆虫】チョウ目：キアゲハ(幼虫)、ヤマトシジミ、ウラギンシジミ、キタキチョウ、モンシロチョウ、ヒメアカタテハ*、アカタテハ*、クロコノマチョウ**、スジキリヨトウ(幼虫)、イラガ(前蛹)/コウチュウ目：ナナホシテントウ、ヨモギハムシ*/トンボ目：アキアカネ、オオアオイトトンボ/バッタ目：オンブバッタ、コバネイナゴ、ヒシバッタ*、イボバッタ*、クビキリギス/カマキリ目：ハラビロカマキリ、チョウセンカマキリ(卵囊)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ

【クモ類】ジョロウグモ、ナガコガネグモ(卵囊)、クサグモの仲間

【植物(花)】キク科：ノゲシ、ハキダメギク、ノコンギク、ヒメジョオン、セイヨウタンポポ、ハハコグサ、オオジシバリ、コセンダングサ、セイトカアワダチソウ、ブタナ/イネ科：セイバンモロコシ/タデ科：ミソソバ/アブラナ科：ナズナ/ナデシコ科：コハコベ/シソ科：ホトケノザ/カタバミ科：カタバミ/クスノキ科：シロダモ/カバノキ科：イヌシデ/ハンノキ科：ハンノキ

【植物(果実)】クスノキ科：シロダモ/アサ科：ムクノキ/ニレ科：エノキ、ケヤキ/ウルシ科：ハゼノキ/ブナ科：シラカシ、クヌギ/モチノキ科：モチノキ、ソヨゴ/モクセイ科：トウネズミモチ/モクレン科：コブシ/ミカン科：ユズ/シソ科：ムラサキシキブ、コムラサキ/ミソハギ科：ザクロ/ニシキギ科：マユミ/バラ科：トキワサンザシ/マメ科：フジ、ニセアカシア/アカネ科：ヘクソカズラ/ウリ科：カラスウリ/タデ科：イヌタデ/イネ科：ススキ、セイバンモロコシ、ヨシ、メヒシバ、ジュズダマ

(注) *印は10月28日の下見の時に確認した種、**印は11月5日のとがたんinJBFの時に同コースで確認した種。

観察した生き物の記録

今回のてがたんのテーマは「白樺派の見た我孫子の自然」でした。

志賀直哉や原田京平など白樺派の文人・芸術家が活躍した約100年前の我孫子の自然をイメージしながら、てがたんコースを散策しました。

ゲスト案内人の白樺文学館学芸員の稲村さんが、白樺派のことや当時の時代背景、また、作品に描かれた我孫子の自然など分かりやすく解説してくれたお陰で、手賀沼周辺の潜在的な魅力がよく分かりました。

お天気もよく、桃山公園からの眺望も楽しむことができました。



今月の案内人：稲村隆さん（白樺文学館学芸員）



①しほり水のしみ出す崖下で見つけたサワガニ。



②市民スタッフがウスカワマイマイを見つけました。



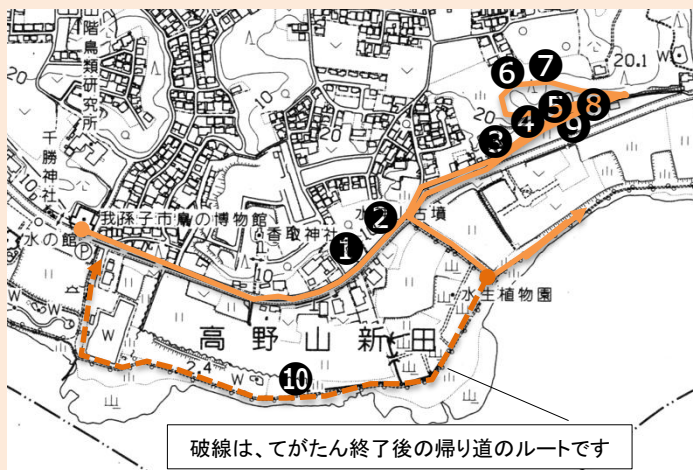
③斜面林下の“ハケの道”を歩いて桃山公園に向かいました。



④ハケの道沿いの各所にしほり水がしみ出し、手賀沼の水源の一部になっています。



⑤成虫越冬するウラギンシジミの雌雄が並んでいました。左の橙色の翅の方が雄です。



破線は、てがたん終了後の帰り道のルートです



⑥桃山公園からの手賀沼の眺望。我孫子が別荘地として人気だった頃の原風景が残っています。

歩いたルートと観察した生き物



⑦桃山公園内の樹木には、メジロが群れていました。



⑧産卵時期の遅いオオアオイトトンボが見られました。



⑨成虫越冬するクビキリギス（褐色型）がまだ活動していました。



⑩雌雄異株のシロダモ。左の雌株には、花と果実が同時に見られました。右が雄株で雄花です。

今月の鳥 バン ツル目クイナ科

バンは、カイツブリやオオバンやヨシゴイとともに手賀沼のヨシ原で子育てする代表的な水鳥です。手賀沼のバンを見て、文豪志賀直哉は、「前髪に赤い手絡（てがら=髪飾り紐）を結び、萌えだしの草の茎のような足で葦の間を駆け歩く姿を見ると・・・」と表現し、「鶺鴒」という作品を残しています。

バンは、ヨシ原の中の水面上に草を編んで巣を造り、子育てします。年2回繁殖することもあり、先に生まれた兄弟がヒナに餌を与えて子育てを助けるヘルパーとなることもあります。また、他のペアの巣に卵を産み込む種内托卵も知られており、一巣卵数23卵という記録もあります。

ヨシ原の中で暮らすバンの生態はまだ謎に満ちています。



赤い額板（がくばん）が特徴のバン

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。